| 講義名 | 経営管理論Ａ（マーケティング学科：2年生+3年生以上） | | | | | 授業形態 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 長田　貴仁 | 開講期・曜日・時限 | 前期 金曜日 ２時限 | | | | |
| | | 単位数 | 2 | 履修開始年次 | ２年生 | ナンバリング・コード | |

## 主題と概要

主題：企業を管理する、企業で管理される―その基礎知識を修得する―
概要：「就活に役立つ講義」である。経営学の中心領域である「経営管理論」の理論とビジネスの現実をバランスよく教授する。
近年、新卒入社して見たものの3年程で辞めてしまう人が増えている。それは、理論以前の問題として、現実のビジネス情報をあまりにも知らないがゆえに生じたミスマッチに起因する。「好きなことを仕事にしたい」、「私は・・・に興味がある」と口にする人は多いが、「今、知っている好きな対象」は少なすぎて話にならない。世間はもっと広い。あなたが「興味がある」と言ったところで、その会社は、現在進めている戦略と乖離していて興味を示さないかもしれない。いわば片思いで終わり、就活で失敗、ということになる。こうならないために、本講義を通して知識武装する。
現実的な話題と結びつけながら、経営管理論に関する理論を身になるものにしていく。

## 到達目標

１．「就活で勝てる」知識武装ができる。
２．「経営管理論」の基礎理論を修得できる。
３．ビジネス関連情報を急増させ、視野を広げることができる。

## 提出課題

適宜指示する。

## 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

Q&Aタイムを設け、質疑応答する。

## 評価の基準

期末レポート50%、質問力・発言内容・受講態度（50%）。
本講義は、受講態度を含めて、現代ビジネス社会の評価基準に準じる。
良い結果を出した人は高く評価する。

１．「Q&Aタイム」で積極的に発言するなど、「ネアカ のびのび へこたれず」の精神を体現し、組織（クラス）のモチベーションを高める前向きの姿勢を見せた人は努力点として加点する。
２．他の科目と同様、出席は当たり前。無断欠席は減点。欠席する場合は、大学の規則に従い、証明書類を事前に提出せよ。
３．居眠り（特に伏せ寝）、私語など、組織（クラス）のモチベーションを落とす迷惑行為、業務（授業）を妨害する行動、発言については、始末書の提出を求める場合がある。その結果しだいで、大幅減点になることを認識し「成人（18歳以上）としての行動」を心掛けて欲しい。意見、反論を述べる場合は、学術の場にふさわしい論理的話法を遵守すること。
４．レポート執筆で、他者に相談をしたり、少しでも同様の内容を真似た場合は、関係者全員を不正行為と見なす。未提出者は「放棄」として扱う。

## 履修にあたっての注意・助言他

１．講義中はノートに記す作業を怠らないこと。筆記道具さえ持参しなような人は意識遅断。
２．毎日、「日本経済新聞」（電子版も可）を読むこと。「日経ビジネス」、「東洋経済」、「ダイヤモンド」、「エコノミスト」などのビジネス週刊誌も定期的に目を通しておき、常に「情報武装」しておくことが望ましい。
３．テーマを決め、それ関する記事をスクラップブックに貼り（デジタル処理してもいい）、熟読し関連情報を調べること。

## 教科書

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| .経営管理論. | 上野恭裕/馬場大治[編著] | 中央経済社 | 2,400円 | 9784502190612 |
| | | | | |

## 参考図書

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

## その他

適宜配布する。

## 授業計画

１．「経営管理論」とはこういう学問。
２．あなたは、企業をイメージだけで見ていませんか。
３．企業における「人」の重要性が変わってきた。
４．ニコニコ上司は増えたが、「組織」は甘くない。
５．モチベーションを高めるには。
６．「リーダーシップなど関係ない」とは言ってられない。
７．企業には、どうして上司がいるのか。
８．「社風」は業界、企業により驚くほど異なる理論的背景。
９．「安定している企業はどこですか」という質問はナンセンス。
10．「面白きの経営」が注目される理由。
11．競争で勝つには。
12．「イノベーション」は日常用語になっていますが、きっちり説明できますか。
13．日本でも当たり前になった人材削減。
14．「技術立国」とは一体何だったのか。
１５．新聞に毎日のように出ている「コーポレートガバナンス」は知っていますよね。知らないとすれば・・・。

## 授業形態（アクティブ・ラーニング）

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ア：PBL（課題解決型学習） | | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| | ウ：ディスカッション、ディベート | | エ：グループワーク |
| | オ：プレゼンテーション | | カ：実習、フィールドワーク |
| | キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） | | |

## 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：2時間＝テキストをどんどん読み進めること。
復習：2時間＝講義中にメモした内容とテキストの内容を合体させ、「自分ノート」に記し、編集すること。
毎日、「日本経済新聞」（電子版も可）を読むこと。

## 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

１．企業活動の一部であるマーケティングと連動して経営全体を理解できる。
２．マーケティングだけしか知らない「経営音痴」にならないようにする。

## 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

## 実務経験の有無及び活用

実務経験あり。著名経営者やビジネスマン、技術者にインタビュー、執筆、編集した経験をもとに、現代ビジネスの実態について言及し、経営学とジャーナリズムの観点から理論的・実践的知識を教授する。

## 備考

ビジネス誌「プレジデント」編集部を経て、2005年4月、神戸大学大学院経営学研究科助（准）教授に就任したのを皮切りに大学の世界に入りました。その後、複数の大学、大学院で一般学生だけでなく、社会人も教えてきました。その中には現役社長も数名いらっしゃいました。これまで、ニューヨーク駐在の他、世界各国で多くの企業エグゼクティブを取材してきました。経営学とビジネス・ジャーナリズムを結合した視座から論考したオピニオンを、学界「学会」に留まらず広く社会に向けて、分かり易い言葉で発信し続けています。ジャーナリズムを知る経営学者、経営学を知るジャーナリストです。現在も、新聞、ビジネス誌などを中心に、執筆し、コメントを発信しています。私の最大の特徴は、実際に戦後の日本経済の成長を支えた日本を代表する経営者たちと実際に対話してきたことです。そこから得た知見を生かし、「生きた経営学」を教授したいと考えています。